

# 社会福祉法人みどり自由学園定款

## 第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第一種社会福祉事業  
児童養護施設の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人みどり自由学園という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、子育て世帯を支援するため、無料または低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を三重県津市乙部33番5号に置く。

## 第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員2名の合計4名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の2名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成するこ

とを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係にある者（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の三分の一を超えて含まれることにはならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が100,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

### 第3章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) 事業計画及び収支予算
- (10) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）
- (11) 公益事業・収益事業に関する重要な事項
- (12) 解散

(13) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項  
(開催)

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名が、前項の議事録に記名押印する。

#### 第4章 役員及び職員

(役員の定数)

第16条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員の選任)

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員資格)

第18条 社会福祉法を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の三分の一を超えて含まれることになってはならない。

2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含め）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含め）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者あってはならない。

(理事の職務及び権限)

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 理事長は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令の定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第23条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員

会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第24条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第5章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 三重県津市乙部735番地所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建寄宿舍 一棟  
(1階 356.64平方メートル、2階 476.72平方メートル)

(2) 三重県津市乙部735番地所在の鉄筋コンクリート造陸屋根2階建寄宿舍 一棟  
(1階 284.90平方メートル、2階 266.12平方メートル)

- (3) 三重県津市乙部735番地所在の鉄筋コンクリート造陸屋根3階建事務所・寄宿舎 一棟 (1階 91.93平方メートル、2階 65.65平方メートル、3階 12.21平方メートル)
  - (4) 三重県津市乙部735番地所在の木造スレート葺平家建倉庫 一棟 (27.43平方メートル)
  - (5) 三重県津市乙部735番地所在の木造スレートぶき2階建児童福祉施設 (1階 80.43平方メートル、2階 44.28平方メートル)
  - (6) 三重県松阪市内五曲町字前沖95番所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建児童養護施設 一棟 (1階 118.00平方メートル、2階 121.08平方メートル)
  - (7) 三重県津市大字乙部字中島772番地所在の木造瓦葺2階建児童養護施設 (1階 73.61平方メートル 2階 36.43平方メートル)
  - (8) 三重県津市大字乙部字中島772番地所在の木造かわらぶき2階建児童養護施設 (1階 74.52平方メートル 2階 33.67平方メートル)
  - (9) 三重県津市中河原字南浦375番地21所在の木造瓦葺2階建児童養護施設 (1階 98.78平方メートル 2階 33.12平方メートル)
  - (10) 三重県津市乙部735番所在の児童養護施設 敷地 (2486.99平方メートル)
  - (11) 三重県津市乙部740番所在の児童養護施設 敷地 (89.25平方メートル)
  - (12) 三重県松阪市内五曲町字前沖95番所在の児童養護施設 敷地 (871.08平方メートル)
  - (13) 三重県松阪市内五曲町字前沖96番5所在の児童養護施設 敷地 (117平方メートル)
  - (14) 三重県津市大字乙部字中島772番所在の児童養護施設敷地 (452.87平方メートル)
  - (15) 三重県松阪市内五曲町字前沖96番1所在の児童養護施設敷地 (197平方メートル)
  - (16) 三重県中河原字南浦375番21所在の児童養護施設敷地 (190.77平方メートル)
  - (17) 三重県松阪市内五曲町字前沖95番3所在の児童養護施設敷地 (17.81平方メートル)
  - (18) 三重県松阪市内五曲町字前沖96番13所在の児童養護施設敷地 (21.35平方メートル)
  - (19) 三重県津市中河原370番3所在の児童養護施設敷地 (122.31平方メートル)
- 3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。
  - 4 基本財産に指定されて寄付された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続

きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数（現在数）の三分の二以上の同意及び評議員会の承認を得て、三重県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、三重県知事の承認は必要としない。

一 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

二 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第33条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数（現在数）の三分の二以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまで、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

(5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
  - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
  - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - (4) 事業の概要等を記載した書類
- (会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数（現在数）の三分の二以上の同意及び評議員会の承認がなければならない。

## 第1章 解散

(解散)

第38条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第39条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第2章 定款の変更

(定款の変更)

第40条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、三重県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を三重県知事に届け出なければならない。

## 第3章 公告の方法その他

(公告の方法)

第41条 この法人の公告は、社会福祉法人みどり自由学園の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又はホームページに掲載して行う。

(施行細則)

第42条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。



附則

この法人の設立当初の役員は、下記のとおりとする。

|    |       |
|----|-------|
| 理長 | 堀川美哉  |
| 理事 | 堀川恵つ  |
| 理事 | 青山榮彰  |
| 理事 | 富田謹三  |
| 理事 | 川村伊助  |
| 監事 | 辻岡石太郎 |

附則

この定款変更は三重県知事の認可の日（平成13年4月24日）から施行する。

附則

第5条（役員の定数）の6人→7人の変更は三重県知事の認可の日（平成14年9月11日）をもって施行する。増員された理事1名の任期は定款第6条の規定にかかわらず平成16年9月10日までとする。

附則

第9条6項の理事の意見表明権及び13条の誤記訂正の定款変更は三重県知事の認可の日（平成16年5月28日）から施行する。

附則

第3条、第9条および第14条の社会福祉法人定款準則の一部改正に伴う変更、及び第13条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の認可の日（平成17年6月30日）から施行する。

附則

第13条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日（平成18年9月20日）から施行する。

附則

第13条の法人の基本財産の増加および第27条の公告の方法の変更にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日（平成19年10月1日）から施行する。

附則

第15条の株式保有の規定の追加および第27条の公告の方法の変更にかかわる定款変更は三重県知事の認可の日（平成21年3月6日）から施行する。

附則

第13条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日（平成21年6月22日）から施行する。

附則

第5条の役員定数の変更にかかわる定款変更は三重県知事の認可の日（平成22年3月

16日) から施行する。

附則

この定款は三重県知事の認可の日(平成25年3月18日)から施行する。ただし、第11条、第14条、第24条、第25条については平成25年4月1日から施行する。

附則

この定款は平成29年4月1日から施行する。ただし、第28条については津市長の認可の日(平成29年3月15日)から施行する。

附則

所管庁の変更に関わる定款変更は三重県知事の認可の日(平成30年3月26日)から施行する。

附則

第1条の事業目的及び第28条の基本財産について処分に関わる定款変更は三重県知事の認可の日(平成30年10月15日)から施行する。

附則

第28条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の認可の日(令和元年12月26日)より施行する。

附則

第28条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日(令和2年10月15日)より施行する。

附則

第28条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日(令和3年1月12日)より施行する。

附則

第7条の評議員の資格、第11条の権限、第14条の決議、第18条の役員の資格、第31条の基本財産の処分、第33条の事業計画及び収支決算、第37条の臨機の措置についてに関わる定款変更は三重県知事の認可の日(令和3年3月23日)から施行する。

附則

第30条の法人資産の基本財産の増加にかかわる定款変更は三重県知事の受理の日(令和3年7月5日)より施行する。

附則

この定款は、令和5年6月2日から施行する。